

「デザイン思考」を取り入れた課題解決学習に実践を交えた取組み

～デザインが街を変える、環境を変える、人の意識をかえる～

周南市立岐陽中学校

教諭 楊井 朋子

1. はじめに

本校は、周南市の中心部に位置し、学校教育目標「人に優しく認め合い一人の社会人として自立する生徒の育成」を掲げ、全校生徒と教職員が、心一つに「輝く人」「輝くまち」「輝く学校」をめざして日々の教育活動に取り組んでいる。生徒は恵まれた環境と歴史・伝統に支えられた校風のもと、勉学はもちろん文化的・体育的活動にも積極的に取り組んでいる。

また、本校はコミュニティ・スクールとして10年目を迎え、毎年のべ2000人を超える生徒が、地域行事の運営や地域の清掃活動に参加し、地域貢献活動を行っている。さらに、令和元年度からは、「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、学校・家庭・地域が連携・協働して行う地域連携授業（保護者、地域住民等が授業に参加し、生徒と議論や対話を行う授業）にも積極的に取り組んでいる。

令和2年度からは、美術科を中心に周南市で活躍するプロのデザイナーにも授業に参加・参画していただき、「デザイン思考」の育成に力を注いでいる。さらに、1年時は徳山動物園のピクトグラムの制作（ちゅうでん教育振興財団助成金より）、2年時は周南市の魅力を伝えるデザインでブックカバーの制作（周南市シティープロモーション課の協力）、本年度は、地元の商店街と連携し、包装紙のパッケージデザイン作成を通じて、生徒のデザイン力を育むとともに、デザインの力で街の活性化を生み出すプロジェクト・ベースド・ラーニング（3年生を対象とした「プロに学ぶデザイン思考」）に取り組む予定である。

本研究は、プロのデザイナーとの連携・協働による美術科での学びを地元の商店街という実社会・実生活と関連付けることで、より実践的で創造的な問題解決を促す「デザイン思考」の育成が期待できると考えた。

本校の美術の授業では、地域で活躍するプロのデザイナーや大学教授を招いて指導いただき、地域にあるものを題材とし、美術と社会をデザインで結びつける取組みを行っている。

私は、日頃から美術と社会を結びつける取組みをしてきたが、それを地域社会、生徒の双方にとって大きな意味のある活動にしたいと考えている。今まで授業で取り組んでいたことは、美術展覧会やコンクールに出品することを1つの目標としていたものが多かった。そのことに疑問を感じながらも授業で身につけさせたいことを必死に考え取り組んできた。数年前、「デザイン思考」を知り、これは、これからの社会を生き抜く生徒たちに身につけさせたい考え方だと実感し、それをさまざまな形で実践している。もちろんこの取組みは自分一人の力ではなく、授業をサポートくださる大学教授やデザイナーの方、地域の方々、地域の関係施設など、多くの人々の協力のおかげでできたことである。そして、この活動を続けていくことで、賛同し、支援してくださる方が徐々に増えていることを実感している。

2. 目的

この研究の目的は、生徒たちが将来、様々な困難にぶつかったとき、「デザイン思考」に基づいて、それを克服したり新しいものを開発し、新たな考え方を生み出したりする力を身につけられるようにすることである。

これらの力は、これからの不確かな世の中を生き抜く今の生徒たちにとって必要な力ではないかと思う。そのために義務教育の最後の3年間の美術の時間に、このデザイン思考を教えることに大変意義があると考えている。また、題材は地域のものに限定し、美術の力で地域に貢献することも視野に入れながら取り組んでいる。

美術科の学習意義

- ・デザインが街を変える、環境を変える、人の意識を変える
 - ・文化資産と豊かな生活環境の構築・・・生活を楽しめる、人の住みやすい都市空間
 - ・地域社会における緩やかな人間関係と包括的な人権感覚の醸成
- これらを「デザイン思考」に取り入れながら、課題解決学習に実践を交えて取り組む。

3. 経緯

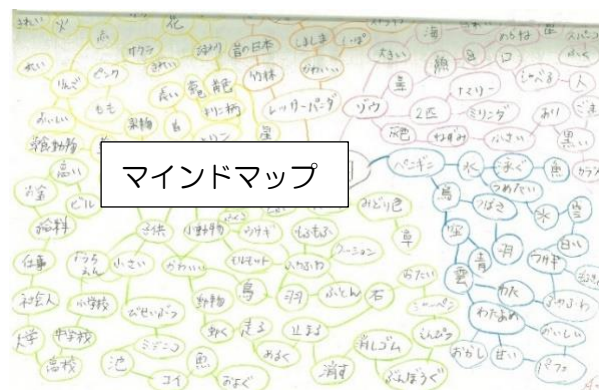
1年時：徳山動物園のピクトグラム（校区内にある動物園を考えることで本市の魅力に気づき、ピクトグラムのデザインを通してユニバーサルデザインについても学習する。）

2年時：周南市の魅力を伝えるデザイン（周南市の魅力をブックカバーで伝える。本市の歴史や魅力を調べ、見所や特産品などを作品に取り入れる。）

3年時：周南市の商店街の店舗包装紙のデザイン（本市の商店街にあるお店のオリジナル包装紙を制作する。商店街の魅力を再発見する。）

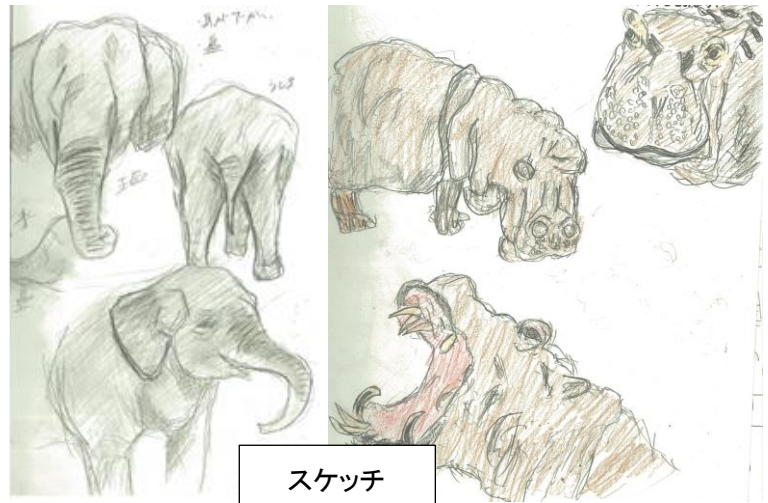
このように生徒たちがデザインしたものが形になり、少しずつ街を変えていくことにつながっているという実感を得ていると思う。その過程で、この街の魅力や歴史などへの誇りや関心を高めていっている。また、この学習は1度だけでなく、継続し学習することで、デザイン思考がより深く身に付いていくと考える。

この取り組みの大きな特色は、美術の教員だけで実践するのではなく、実際にプロのデザイナーの方を招いて授業でのアドバイスなどをもらい、作品の監修、デジタルデータへの変換も行っていることである。デジタルデータで残すことは今後、さまざまなことに転用できる。実際に、ピクトグラムのデザインを活用して、地域のお祭りで配付するうちわを作りたいという依頼や、動物園の表示での活用を検討している。生徒たちも自分たちのデザインがさまざまなことで活用されていることを目の当たりにして、充実感を得ている。美術と社会をデザインの力で結びつけていることが実証されつつあると思う。これらの活動を個人で続けて行くことには限界があるので、今後は市のシティープロモーション課の方々と連携しながら、取り組む予定である。今後も、デザインの力で少しずつ、環境や意識を変えていく

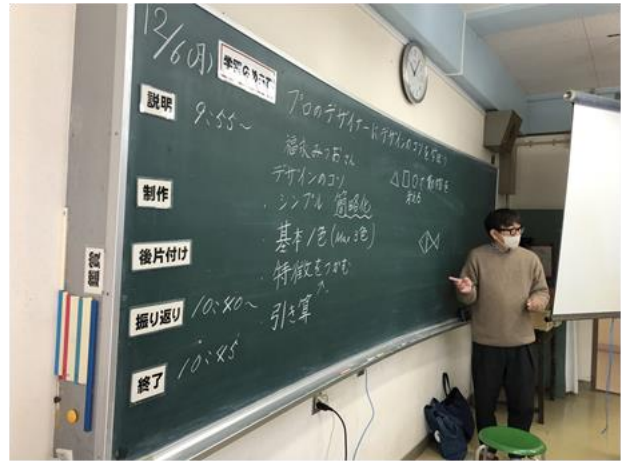
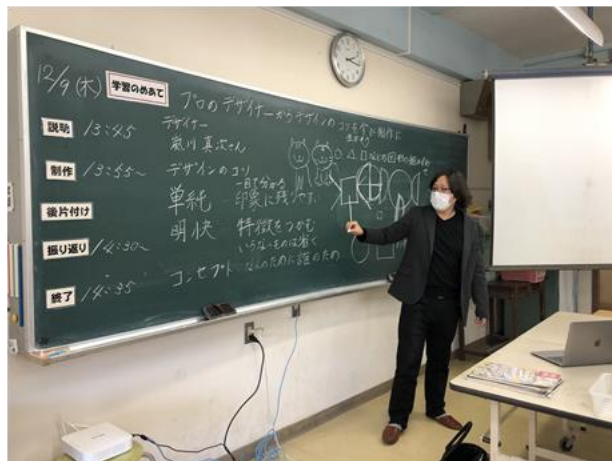


(3) デザイン下絵

- タブレットを見ながら、細部まで、じっくり観察して描く。
- さまざまな角度からのスケッチ

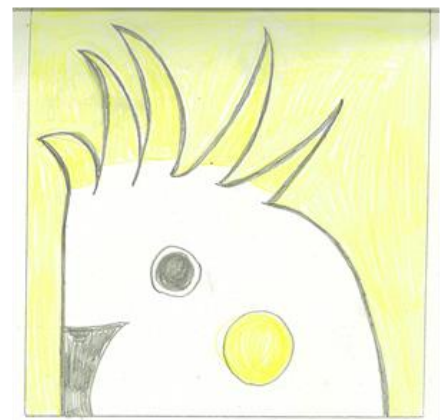
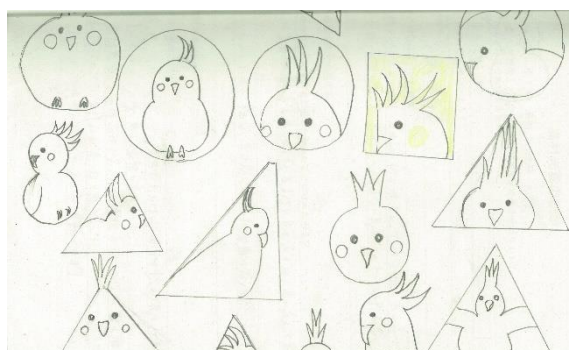


- プロデザイナーによる図案づくりの指導



(4) プレーンストーム (図案についての検討、ブラッシュアップ)

デザイン下絵のためのスケッチ



(5) ピクトグラム制作



(6) 展示・評価

～デザイナー、大学教授で本校にて選定～



～徳山動物園展示館展示・徳山駅前図書館展示～



徳山動物園展示館にて



徳山駅前図書館にて

ピクトグラムの成果物の展開

徳山動物園との協議の結果

- 看板は徳山動物園か市の施設内に展示をする。
- 作品データを、動物園の案内表示、園内マップに活用予定。
- 10種類では、少ないので、追加の注文を受けている。今後も毎年増やしていきたいと考えている。



• 地域のお祭りのうちわ



周南市に魅力を伝えるデザイン 周南市の魅力を伝えるデザイン

(周南市シティープロモーション課との連携事業)

(1) 情報の収集

ア. 教師によるイントロダクション

イ. 生徒による調査(リサーチ)

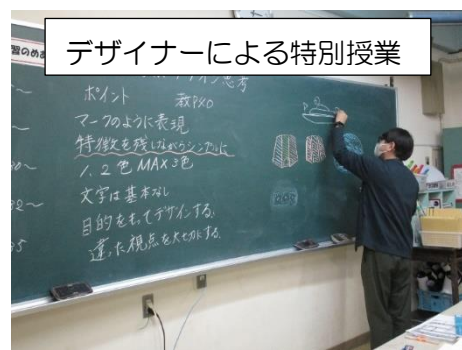
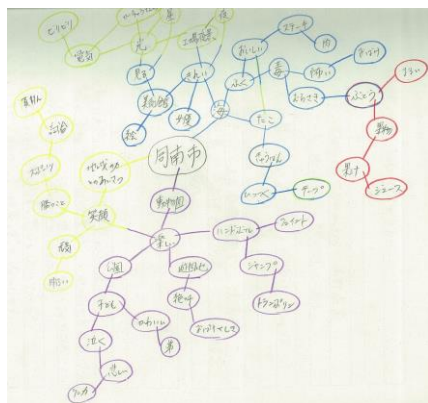
- ・ネット検索
- ・保護者などからのインタビュー

ウ. 周南市シティープロモーション課の方による本市の現状や今後の展望の講義

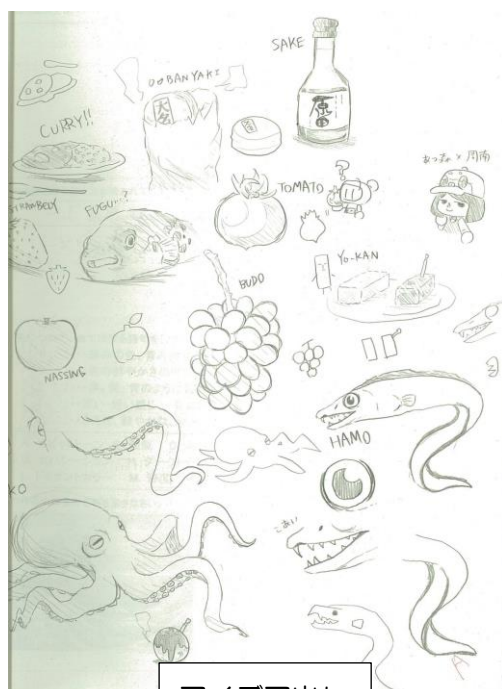
(2) マインドマップづくり

(3) デザイン下絵

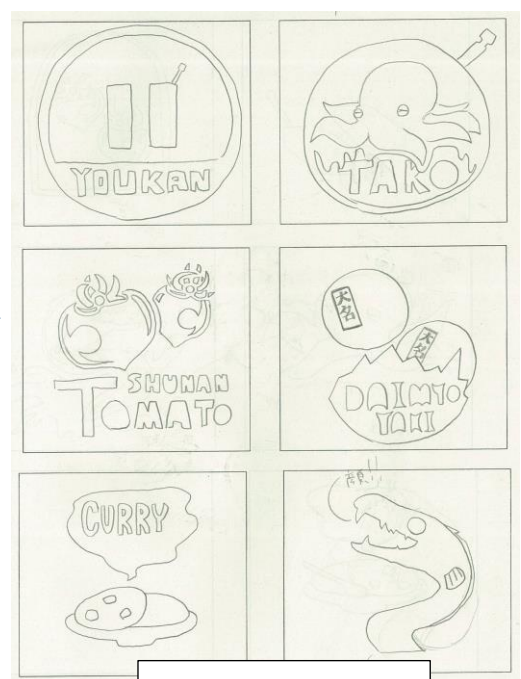
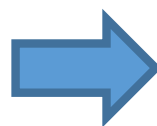
プロデザイナーの図案づくりの指導



(4) プレーンストーム(図案についての検討、ブラッシュアップ)



アイデア出し



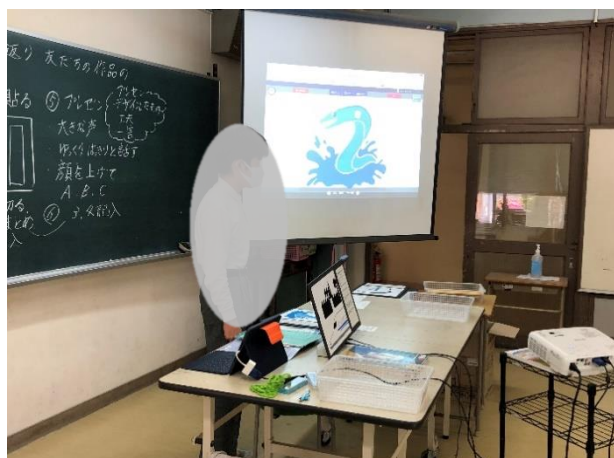
アイデアの絞り出し

(5) 制作 ポスターカラーでの着色

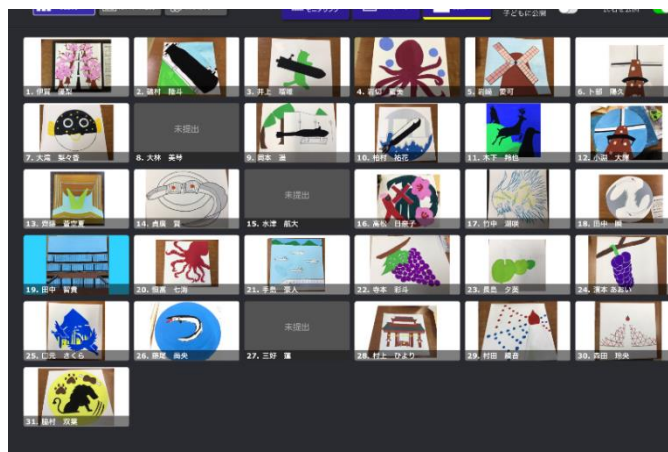


(6) 展示・評価

- ・文化祭で本校に展示
- ・徳山駅前図書館に展示予定
- ・生徒によるプレゼンテーション



・生徒同士の相互鑑賞



・デザイナー、大学教授、市役所関係者での選考



今後の展開・活用方法

- ・デザイナーの方によるデジタルデータへの変換
- ・ブックカバーにして徳山駅前図書館で配付予定
- ・徳山駅前図書館にて生徒全員の作品を展示予定。
- ・周南市のマップ作りに生徒作品を活用する。
- ・さらなる活用方法を検討中である。

★現在取り組んでいること 本年度2学期から開始 （下中科学研究助成金活用事業）

周南市の地元商店の包装紙のデザイン

- ・自分たちのデザインで地域に貢献をする。
- ・地元の商店について、深く知り、今後の課題を検証する。

ただ今実施中

学習のプロセス

今回はクラスごとに担当店舗を決めて、包装紙のデザインに取り組む。

（１）情報収集

- ・各店舗にインタビュー・・・夏休みに班の代表グループが店舗に出向いてインタビューを行う。



文房具店でのインタビュー



花屋さんでのインタビュー



造り酒屋でのインタビュー

- ・インタビュー活動で得た情報をもとに、別の班がプレゼン資料を作る。
- ・クラスメイトに、生徒たちがインタビュー班の活動で知り得た情報を伝える。
- ・インターネットや実際に店舗に赴き、情報を集める。
- ・保護者などにインタビューをする。

（２）マインドマップ

- ・シンプルマインド（iPad）や手書きのどちらか

（３）アイデアスケッチ

- ・マインドマップを元にアイデアスケッチを考える。
- ・プロのデザイナーによるデザイン特別授業。

（４）ブレインストーム（図案についての検討、ブラッシュアップ）

(5) 包装紙のデザイン画 制作

(6) 展示・評価

- ・店舗の方を招いてプレゼンテーションを行う。
- ・プレゼンを聞き、生徒の作品に対する思いなどを知り、選んでもらう。
- ・選んだものをデザイナーの方がデジタルデータにし、印刷業者に依頼をする。
- ・印刷した包装紙を店舗で使っていただき、改善点などを聞き、今後の制作に生かす。

デザイン思考を授業に取り入れることでの変化

- ・デザイン思考を繰り返し活用することで、本当に必要なこと、ユーザーのニーズなどを考える習慣が身に付く。
- ・この思考でさまざまな課題解決や新しい発想や思考の仕方が身に付くと思う。
- ・本当の意味での成果は、10年後、20年後彼らがこの国を担うときに実証されると考える。

他校でも実践するために今後の展開

- ・各学校で取り組みやすいパッケージモデルをつくり、提供していく。
- ・各地域の実情に応じて変化させる。
- ・コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、地域の人材を探し、地域で取り組んでほしいことなどを聞く。

4. 最後に

日本は、今後どのように変貌を遂げるのか分からないが、彼らの力でいかようにでも変えていけるのではないかなと思う。私たち大人は、悲観的なことを並べて、子どもたちに不安を煽ることが多いように感じる。しかし、どのような時代になり、困難な状況でも打破できるという自信が身に付けば、日本の未来は明るいと思う。その予測不可能な時代にこそこのデザイン思考が役に立つと考える。

美術は入試の5教科に含まれないため、軽視する生徒や先生が存在するのも事実である。だが、不確かな時代に生きる生徒たちにこそ、新しいものを考え、他者に共感する幅広い視野を養うことのできる美術という教科の重要性に、気づいてほしいものである。少し時間はかかるが、自らが地道に続け、他にも実践していく学校が増えていけば、デザイン思考を身に付ける生徒が増える。そのためのノウハウを多くの人に伝えていきたい。また、さまざまな形でこのデザイン思考を授業に取り入れ、実践していき、周南市といえばデザインの街と認識されるまでに高めていきたい。

本市（周南市）は工業の街として栄え、かつては大変活気のある街であった。だが、近年その活気が徐々に失われつつあるのも事実である。そこで、私はこの街をどのように変えていくのか、活性化するにはどのすればよいかといった、この街の10年後、20年後のこと

を真剣に考えてきた。そこで、やはりこの街にはデザインの力が必要であるとの考えに至った。これから長い時間はかかると思うが、このデザイン思考を根付かせ、デザインの力で少しずつ地域を活性化していくこともこの取組の狙いである。この成果が実証されるのは、長い年月が必要である。すぐに結果が出るものは、廃れるのも早いと考える。人を育てるのに時間はかかる、よって成果が出るのにも時間がかかる。少しずつ成果を伝えて、実証していきたいと思う。

今後も「デザイン思考」を美術の時間で積極的に取り入れて実践していき、更に他教科でも活用できるように進めていきたい。また、美術科教員全体で取り組んでいき、この「デザイン思考」を定着させたいと心から思う。

謝辞 本研究にあたり、機会をいただいた公益財団法人下中記念財団および関係者の方々に御礼申し上げます。

〈 参考文献 〉

実践 スタンフォード式デザイン思考 ジャスパーク著
世界のトップデザインが教えるデザイン思考の授業 佐宗 邦威著
進化思考 生き残るコンセプトをつくる「変異と適応」立川 英輔著

〈 略歴 〉

1997年山口県立華陵高等学校卒業
2001年京都芸術短期大学 専攻科卒業
2003年～2004年 ロータリー財団国際親善奨学生として渡伊
ペルージャ美術学院彫刻専攻
2007年 ペルージャ美術学院卒業
2010年 山口県公立学校教員として採用



〈 研究略歴 〉

2013年 11月15日 第65回造形教育・図画工作・美術教育研究全国大会
実践研究 発表 モニュメント制作から創造的に表現する力を高める ～平田中学校にモ
ニュメントをつくろう～

2017年 10月8日 第68回造形教育・図画工作・美術教育研究全国大会
実践研究 発表 ゲルニカ ～新たな鑑賞の視点を得る～

〈 受賞歴 〉

公益財団法人ちゅうでん教育振興財団（2021・2022年度）
第21・22回ちゅうでん教育振興助成（小・中学校の部）

研究課題 プロに学ぶ「デザイン思考」 ～徳山動物園のピクトグラム制作～
〈 勤務校 〉

周南市立岐陽中学校

〒745-0851

山口県周南市大字徳山4915番地